



筑波技術大学では、筑波技術大学ニュースのメール配信を行っております。ご希望の方は、件名を「筑波技術大学メール配信希望」、本文に、「団体名（個人名）」をご記入の上、筑波技術大学総務課企画・広報係（kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp）までメールにてご連絡ください。



● 茨城県教育委員会との協定の締結について

1月26日、本学は茨城県教育委員会と「茨城県教育委員会と国立大学法人筑波技術大学との連携に関する協定書」を締結しました。

本協定は、本学と茨城県教育委員会が相互の連携を強化し、茨城県内における聴覚・視覚障害者の教育の改善及び情報保障の推進を図るものです。

同日、茨城県庁で行なわれた協定式では、大越学長と小野寺俊教育長がそれぞれ協定書に押印し、協定が締結され

ました。その後、大越学長と小野寺教育長から挨拶がありました。

今回の協定締結により、今後、本学と県立盲学校、県立水戸聾学校及び県立霞ヶ浦聾学校との間において、本学が培ってきた障害者教育に関する多くのノウハウの提供、教員及び学生・生徒間の双方向交流等により、茨城県における聴覚・視覚障害者教育の充実を図っていきます。

(総務課総務係)



協定式の様子



大越学長（左）と小野寺教育長（右）

● 学生の活躍

全日本パラクライミング選手権大会優勝

1月10日、明治大学において全日本パラクライミング選手権大会2016が開催され、保健科学部情報システム学科1年の會田祥君が、視覚障害カテゴリーにおいて優勝しました。本大会は、9月に開催される2016IFSCクライミング世界選手権パリ大会の日本代表選考会を兼ねていましたが、視覚障害カテゴリーで1位となった會田君はみごと日本代表に選ばれました。



表彰後の會田さん

学内でトレーニングできる環境がないので、守谷市等まで出向いて練習を重ねてきた苦労が実を結んだ結果だと思っています。會田君は2012年のIFSCパリ大会と2014年のIFSCスペイン大会の視覚障害B2カテゴリーで連続して優勝しているので、今年のパリ大会での活躍もおおいに期待されます。

(情報システム学科
坂尻 正次)

バレー部がエキシビジョンマッチを開催

12月12日、つくば市桜総合体育館にて行われたバレーボールVチャレンジリーグI男子大会の試合において、本学バレー部がエキシビジョンマッチを行いました。

MIP（最も印象に残った選手）には、学生チームキャプテンで産業技術学部産業情報学科4年の井上拓也さんが選ばれました。井上さんは、「公式の試合をするという大きな経験ができました。一般の観客の前で試合をするのは初めてでしたが、しっかりと自分達のバレーを展開していく事ができたと思います。エキシビジョンマッチの開催にあたって色々と準備をして頂いた関係者の方々誠にありがとうございました。」と試合の感想を述べられました。

(総務課企画・広報係)



試合後の集合写真

世界ろう者フットサル選手権大会で活躍

11月20日から28日、タイのバンコクで開催された第4回世界ろう者フットサル選手権大会において、産業技術学部総合デザイン学科4年の岩渕亜依さんが日本代表として出場しました。

大会前の学長表敬訪問では、試合にかける想いやメダル獲得への意気込みを語ってくれた岩渕さん。全5試合に先発出場し、予選突破を決めたスペイン戦での1得点を含む計3得点を挙げる活躍を見せてくれました。結果は出場13ヶ国中6位となりました。

卒業後もフットサルを続けるとのことです。今後の活躍が期待されます。

(総務課企画・広報係)



ロシア戦でプレーする岩渕さん

第9回囲碁・将棋大会を開催

10月17日、春日キャンパスで第9回囲碁・将棋大会が開催されました。

関西棋院より中野泰宏先生をお招きし、熱心なご指導を頂きながら、囲碁の部と将棋の部に分かれ、産業技術学部・保健科学部の学生が入り混じって対局を行いました。今年度は、囲碁の部で産業技術学部産業情報学科3年の岡本健君が、将棋の部では保健科学部保健学科理学療法学専攻2年の阿部勝也君がそれぞれ優勝し、優勝者・準優勝者には大越学長から賞状と副賞が贈られました。対局は、ボランティアの指導者や、OB、OGが見守る中行われ、視覚・聴覚といった障害の枠を越えたイベントとなりました。

(視覚障害系支援課学生係)



参加者の集合写真

全日本視覚障害者柔道大会で活躍

11月22日、東京都文京区の講道館において、第30回記念全日本視覚障害者柔道大会が開催されました。保健科学部からは、情報システム学科4年の熊谷祐太君、同3年の市場大亮君、保健学科鍼灸学専攻1年の井上流衣君が出場しました。結果は、熊谷君が66kg級で3位、市場君と井上君が無段者の部で共に3位でした。

(障害者高等教育研究支援センター 村上 佳久)



賞状とメダルを持った3人

第100回二科展デザイン部で受賞

9月2日から14日、東京六本木の国立新美術館で開催された第100回二科展デザイン部で、産業技術学部総合デザイン学科2年の太田美菜子さんの作品「12を巡る物語」が入選しました。

また、卒業生3名も準入選に輝きました。

(名誉教授 安田 輝男
総合デザイン学科長 長島 一道)



太田さんの作品「12を巡る物語」

● 第11回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムを開催

12月19日、20日に第11回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム（主催：国立大学法人筑波技術大学・日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）、共催：国立大学法人福岡教育大学）が福岡県春日市で開催され、九州・沖縄地区を中心に、全国から大学教職員や聴覚障害学生、支援学生等、約400名の参加者が集まりました。

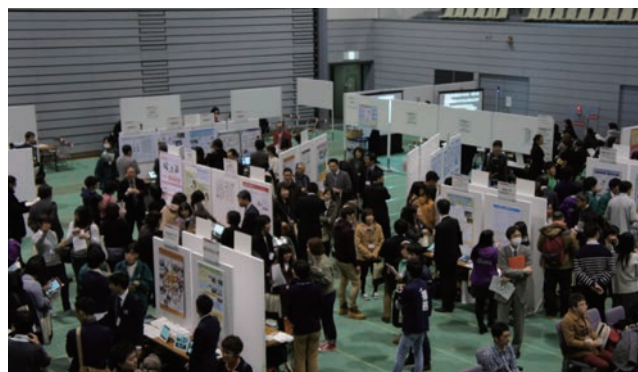
1日目はアフタヌーンセッションが盛大に行われ、オープニングには始まり、聴覚障害学生支援に関連した4つのミニセミナーや、個別にじっくり話せる相談コーナー、聴覚障害学生支援に関する最新の技術に触れられる機器展示など、さまざまな催しで大変賑わいました。特に注目の「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト」では聴覚障害学生支援に熱心に取り組んでいる17大学・団体からの応募があり、それぞれ工夫を凝らしたポスター発表が行われ、特に注目度の高かった発表が表彰されました。また、夜には本学学生による「学生交流企画」を行い、聴覚障害学生や支援学生約80名が参加し、ディスカッション等で盛り上がりしました。

2日目の午前は、4つの分科会（基礎講座「聴覚障害学生支援再入門—合理的配慮の考えにもとづいて—」、「合理的配慮の時代に求められる聴覚障害学生の構えと技術」、「一緒にスキルアップ Part2—ノートテイク・パソコンノートテイク・手話通訳—」、「チバリヨ—最初で最後の九州・沖縄開催としないために一地区の実践から学ぶ—」）が行われ、いずれの企画でも活発な意見交換が行われました。午後に行われた全体会では、ご来賓としてお越しいただいた文部科学省高等教育局学生留学生課課長補佐小代哲也氏からご挨拶を頂戴し、その後、特別企画として公開事例検討会「どうする？ どうなる？ 合理的配慮—事例から読み解く障害者差別解消法—」が行われました。特別企画は本学の白澤麻弓准教授が司会を担当し、講師として、藤木和子氏（弁護士）、池谷航介氏（大阪教育大学）、松岡克尚氏（関西学院大学）、村田淳氏（京都大学）をお迎えし、熱い事例検討がステージ上で繰り広げられました。

（障害者高等教育研究支援センター 萩原 彩子）



全体会の様子



アフタヌーンセッションの様子

● 北海道高等聾学校と「授業で使う手話の情報交換会」を実施

1月25日、高大連携プロジェクトの一環として、北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科の先生方と、本学産業技術学部情報科学専攻の教員が中心となって、手話の情報交換会を実施しました。

テレビ会議システムを通して、主に情報系のWebコンテンツ制作の授業で用いられる専門用語について、どのような手話表現を使っているかを紹介しました。どのような言葉を使って、どのように生徒・学生に教えるかを教員同士で議論するとても良い機会となりました。

高大連携プロジェクトでは、これまでろう学校の生徒を中心として、様々な学びの機会の提供をしてきましたが、今回は教員が自分自身の授業・手話技術の向上のための研修を行いました。ろう学校と本学とでそれぞれ培われてきた授業のためのノウハウを共有する取り組みも、今後続けていきたいと思っています。

高大連携プロジェクトでは、対面での出前授業、遠隔通

信を用いた授業、メールでのやりとりなど、あらゆる方法を活用して、遠隔地の学生の学びを支援しています。少しでもご興味をお持ちいただけましたらお気軽にお声がけください。

（産業技術学部産業情報学科 谷 貴幸、塩野目 剛亮）



情報交換会の様子

● 第5回筑波障害学生支援研究会を開催

11月5日、本学天久保キャンパスにおいて、全国の障害学生支援に携わる教職員を対象とした「第5回筑波障害学生支援研究会」を開催しました。本研究会は障害学生支援に関する情報を広く提供することにより、全国の高等教育機関の教職員が障害学生に対する支援の更なる理解を深め、障害学生支援の質の向上に資することを目的として、筑波技術大学と筑波大学の共催で開催しているものです。今回は、本学のFD/SD研修会としても開催されました。

今年度の研究会のテーマは「合理的配慮の提供に向けた建設的対話のあり方を考える～障害者差別解消法の施行を目前に～」とし、大学として求められる支援の合理性と合意形成、支援内容決定プロセスの中で必要とされる視点と判断について扱いました。文部科学省より行政の現状についてご報告いただいた後、基調講演では先進事例としてアメリカの取組や紛争解決事例が紹介されました。また、話題提供として3大学から事例を交えたご発表をいただきました。パネルディスカッションでは参加者から寄せられた質問を基に、高等教育機関における障害学生支援のあり方について活発な意見交換が行われました。

全国の74大学・機関から136人の参加者があり、アンケート回答では「配慮すべき判断基準が理解できた」や「意思表示支援の考え方について、あらためて考える機会となった」という声が聞かれました。

(障害者高等教育研究支援センター

「障害者高等教育拠点」事務局)



パネルディスカッションの様子

● 情報アクセシビリティ・フォーラム 2015 に本学が出展

12月12日、13日に東京・秋葉原UDX他で行われた情報アクセシビリティ・フォーラム2015に本学が出展しました。本学が特別協力した本フォーラムは、聴覚障害者におけるアクセシビリティの理念を市民に広めることを目的として行われました。

フォーラムには学ぶフロアと感じるフロアの2つの企画があり、学ぶフロアでは本学教員がコーディネータ、コメンテーターとしてワークショップ、カンファレンスに多数参加しました。感じるフロアの本学ブースでは、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)、障害者高等教育拠点 (文科省認定)、高大連携事業など、我

が国唯一の聴覚・視覚障害者のための高等教育機関「筑波技術大学」を紹介しました。

12日には本学ブースに秋篠宮妃殿下および佳子内親王殿下が御成りになりました。また、安倍昭恵首相夫人を初め、市民や本学卒業生など、2日間で1万人を超える方にお越し頂き、本学の取り組みを紹介させていただきました。

(総務課企画・広報係)



本学の紹介を受ける安倍昭恵首相夫人



本学関係者の集合写真

● 第8回三大学連携・障がい者のためのスポーツイベントを開催

11月23日、天久保キャンパス体育館他にて、「第8回三大学連携・障がい者のためのスポーツイベント - 障がいのある人、スポーツ・遊びに参加しよう - 」が開催されました。このイベントは茨城県立医療大学、筑波大学、本学が連携して毎年開催しているものです。

当日は小雨が降る寒い中、多くの方にご参加いただきました。ボルダリング、フライングディスク、ボッチャ、ビームライフル、卓球バレー、ふうせん遊び、自由遊びなどの種目を、障がい者の方も障がいのない人も、一緒に楽しん

でいただきました。

また、今回はプロゴルファーの東尾理子さん、プロビーチバレー選手の浦田聖子さんと庄司憲右さんも参加され、一緒に楽しんでいかれました。

本学では毎月「障害者スポーツ教室」を開催しています。障害の種別や有無、年齢を問わずどなたでも参加できます。詳しくは本学HPをご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。

(障害者高等教育研究支援センター 中島 幸則)



集合写真



ふうせんバレーの様子

● 平成27年度学園祭を開催

10月31日と11月1日、天久保キャンパスと春日キャンパスで「つながり」をテーマに学園祭が開催されました。

聴覚障害学生が学ぶ天久保キャンパスの「天龍祭」では、NHK手話ニュースキャスターの那須英彰さんと日本ろう者劇団の砂田アトム氏による公演「二人芝居&手話語り」、女優の忍足亜希子さんによる講演や、アームレスリングトーナメント・和太鼓演奏・ダンス等の企画、総合デザイン学科による展示や聴覚障害のある人のための事業紹介などの展示に加え、多数の模擬店も出店され、多くの来場者を楽しんでいただくことができました。

視覚障害学生が学ぶ春日キャンパスの「春日祭」では、あん摩マッサージやオイルマッサージ、情報関係の発表といった、学習の成果を活かした出し物のほか、バンドサークルによる演奏やよさこいYAPPE隊による演舞よさこいソーランなどがステージで行われ、学生、来場者の交流も活発に行われるにぎやかなものとなりました。

今回は本学が4年制大学となって10周年という節目の年であり、両キャンパスともそれぞれに趣向を凝らし、学園祭は成功裏に終わりました。

(聴覚障害系支援課、視覚障害系支援課 学生係)



天久保キャンパス



春日キャンパス

● 平成 27 年度海外研修事業報告会を実施

11月17日、春日キャンパス 136 会議室において、平成 27 年度に実施した海外研修事業のうち欧州研修、米国アイオワ大学研修、中国研修について、派遣学生による報告会が開催されました。報告会には教員と学生合わせて約 30 名が参加し、引率教員の話に引き続き各派遣学生からの報告がありました。

欧州研修（平成 27 年 7 月 27 日～8 月 5 日）については、保健科学部情報システム学科 3 年の小宮尚貴君と森山夏気さんから、欧州各国から視覚障害学生が集まり共同生活を通して相互理解を深めるサマーキャンプ「International Camp on Communication and Computers (ICC)」の様子が報告されました。今回のサマーキャンプは、オランダ王国のツァイストで開催され、期間中に様々なテーマのワークショップに参加し、英語力の重要性を実感するなど、苦労もあったようですが、充実した 10 日間のスケジュールを過ごしたようです。

米国アイオワ大学研修（平成 27 年 9 月 16 日～26 日）については、保健科学部保健学科理学療法専攻 3 年の酒井駿輔君と守田実希さんから報告があり、研修をとおして、現地学生の自ら学ぼうとする姿勢が刺激となったこと、また日本の授業や教科書からは得られない最先端の情報を体験授業、施設見学等で得ることができたこと、などが述べられました。現地での体験が学生にとって非常に刺激になったようで、今後の大学生活に非常にプラスになったようです。

中国研修（平成 27 年 9 月 20 日～25 日）については、保健科学部保健学科鍼灸学専攻 2 年の篠崎聡美さん、同 4 年の水上次郎君から報告がありました。研修では、訪問先の長春大学特殊教育学院、吉林省中医科学院第一臨床医院、北京連合大学特殊教育学院などを訪問し、学生同士の実技交流では日中の技術を披露しあったり、また病院の臨床見学では、中国独自の技術を体験するなど、非常に貴重な経験となったようです。また、各報告後の質疑応答では、活発な質疑応答が行われました。

（国際交流委員会委員長 西岡 知之）



学生による発表の様子

● 平成 27 年度研究奨励奨学金の目録授与式を実施

10月27日、学長室において、研究奨励奨学金の目録授与式が行われました。筑波技術大学の運用益奨学金として支給されるもので、平成 27 年度は大学院学生の研究活動の活性化のため、大学院学生 19 名に対して研究奨励奨学金を支給することとなりました。

目録の授与式には大学院学生 12 名が参加し、学長が、この研究奨励奨学金は学会出席などの研究活動に有効に使用していただき、今後も研究活動に励んでくださいと激励されました。

（聴覚障害系支援課学生係）



目録授与式の様子



集合写真

● ロチェスター工科大学・国立聾工科大学 (NTID) 御一行が来学

1月13日、大学間協定を結んでいるアメリカ合衆国のロチェスター工科大学・国立聾工科大学 (NTID) より学生20名、教員3名、通訳者3名が来学しました。

大越学長の歓迎の挨拶の後、西岡国際交流委員長より本学の概要説明がありました。その後、3班に分かれて体育や工芸演習、機械設計などの授業見学が行われました。



書道体験の様子

午後は本学学生と交流を行いました。けん玉や福笑いなどの遊びコーナー、書道体験コーナー、茶道体験コーナーを用意し、日本の文化に触れていただきました。

集合写真撮影の後は、学生や教員同士でプレゼント交換が行われ、交流を深めていました。

(総務課企画・広報係)



集合写真

● 国際教育交流短期受け入れプログラムを実施 (長春大学・特殊教育学院)

12月7日から16日、大学間協定を結んでいる中国の長春大学・特殊教育学院より、鍼灸、推拿 (すいな、中国のマッサージ) を学んでいる燕艶さん (3年) と代聡さん (4年) の2名の学生と、引率の史勇先生 (鍼灸・推拿学)、白晶先生 (通訳担当) を迎えて、国際教育交流短期受入プログラムを実施しました。

初日は、学長表敬訪問、キャンパス見学の後、日本語講座、また、鍼灸学3年の東洋医学臨床論演習の授業に参加し、日本の手技療法である「あん摩」VS中国の手技療法である「推拿」の技術交流を行いました。夜は鍼灸学専攻主催の歓迎会が催され、留学生センター設置準備室室長の松藤教授の歓迎挨拶の後、学生主催の文化交流セッションが設けられ、鍼灸学専攻3年の田部井君の鼓と鍼灸学専攻3年千代谷君のピアノのコラボ演奏、日本の遊び (折り紙、あやとり、けん玉) の紹介も行われました。似て非なる東

アジアの異文化に触れる一時でした。

10日間、保健科学部での授業を中心に、盛りだくさんのスケジュールで学んでいただきました。

(保健学科鍼灸学専攻 殿山 希)



大越学長との記念写真

● 春日キャンパスの一般公開について

文部科学省主催で行われる「平成28年度第57回科学技術週間」において、春日キャンパスを下記日時で一般公開いたします。

触って理解する教材・施設内に設けられた触覚的な手がかり・コンピュータを使うための音声合成ソフトウェア・体育館の設備など、普段目にする事のない視覚障害に配慮した学習環境や支援機器をご体験いただけます。また、視覚障害関係の切手の展示も行います。

個人はもちろんのこと、団体の見学も受け付けております。お気軽にお問い合わせください。

日時：2016年4月22日 金曜日 13:00～17:00

お問い合わせ先：kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp (総務課企画・広報係)

筑波技術大学ニュース 第36号

発行 筑波技術大学 広報室

編集 筑波技術大学 総務課

発行日 平成28(2016)年2月

〒305-8520 茨城県つくば市天久保4丁目3-15

URL <http://www.tsukuba-tech.ac.jp/>

E-Mail kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp

Tel 029-858-9311

Fax 029-858-9312